

NPOの活動と社会教育の連携

自分から自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



2025/9/5
NPO法人みらいずworks
代表理事 小見まいこ

みらいずWorksが描く理想の未来図

自分から自分らしく みんなとともに 社会をつくる人を育てる



自分と違うだけかと話すことで
 自分は自分のままでいいと思えるようになる。
 みんなと気持ちを分かち合い、
 「一緒につくるってのいいな」と前にふみ出す力がわいてくる。
 そして、一人ひとりの「わくわく」がつながって、
 未来がじんわり育っていく。
 それが、わたしたちが思い描く社会の未来図です。
 あなたなら、どんな理想を思い浮かべますか？



自分の生き方と向き合う キャリア教育



あの人の
想いを
もっと知りたい

「やってみよう！」と前向きな気持ちが芽生えて 社会の創り手になる

「社会の創り手」とは、身のまわりや地域により良い変化を生み出す人のことです。家庭、学校、会社、地域…。どんな場所にも、その人にしかできない役割があります。お互いを認め合いながら、自分もその場をつくる一員だと実感すること。「わくわく」を持ち寄って、一緒にチャレンジしてみること。そんな小さなアクションの一つひとつが、社会を創る力になっていくのです。

自分が考えた
アイデアが
採用された

手をとりあって みらい

…みんなとともに…

Change! そんな世の中を 変える!!



みらいず Works

キャリア教育* & フシリテーション* のチカラで

見える世界が広がって

自分にわくわくする

安心できる空間で、多様なひと・もの・ことに触れると、自分は何んなことに興味があるのかが分り、自分自身を大切に思えるようになります。「ありのままの自分でいいんだ」と知り、好奇心のままに一歩をふみ出してみる。たくさんの感情を味わいながら、「いいね!」と共感し合う。自分に向き合い、人とつながる経験が積み重なると、一人ひとりの可能性がどんどん広がっていきます。

気づかなかった
長所を
褒めてもらった

自分の一言に
共感して
もらった



安心して認め合える

フシリ テーション

孤独を感じる
時がある

ひと・もの・
ことに
関心がない

他者との
つながりが
薄い

ひとりぼっちに なりがちな世の中で

生きていても
たのしくない

自分なんか
ダメなんだ

社会が変化の中で、人とふれ合う機会が少なくなりました。他の人に興味を持ってなくなり、社会とのつながりも弱まっています。つい、気持ちが「今だけ・こだけ・自分だけ」になっていませんか？自分を認められず、将来に楽しみや希望を持っていないと感じていませんか？わたしたちは、そんな日常を少しずつ変えていきたいのです。



※くわしくは裏面で紹介しています



生き方や自己実現
について考える

「キャリア教育」

問いからはじまり
興味関心を深める

「探究学習」

子どもと大人が出会い
想いを伝え合う

「対話の場」

子どもとの
関わり方を考える

「教職員研修」

分野や世代を
超えて、多様な人と
協働を生み出す

「多分野連携」



学校教育と社会教育の協働の場づくり支援をしています

**コミュニティ・スクール
運営研修** 佐渡市、新潟市、
魚沼市、津南町、白山市



教職員向け研修
社会教育主事研修
コーディネーター研修など



地域の方と子どもが 地域の未来を語り合う場 を支援しています



①地域コミュニティにかかる NPOの共通課題

自分から自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



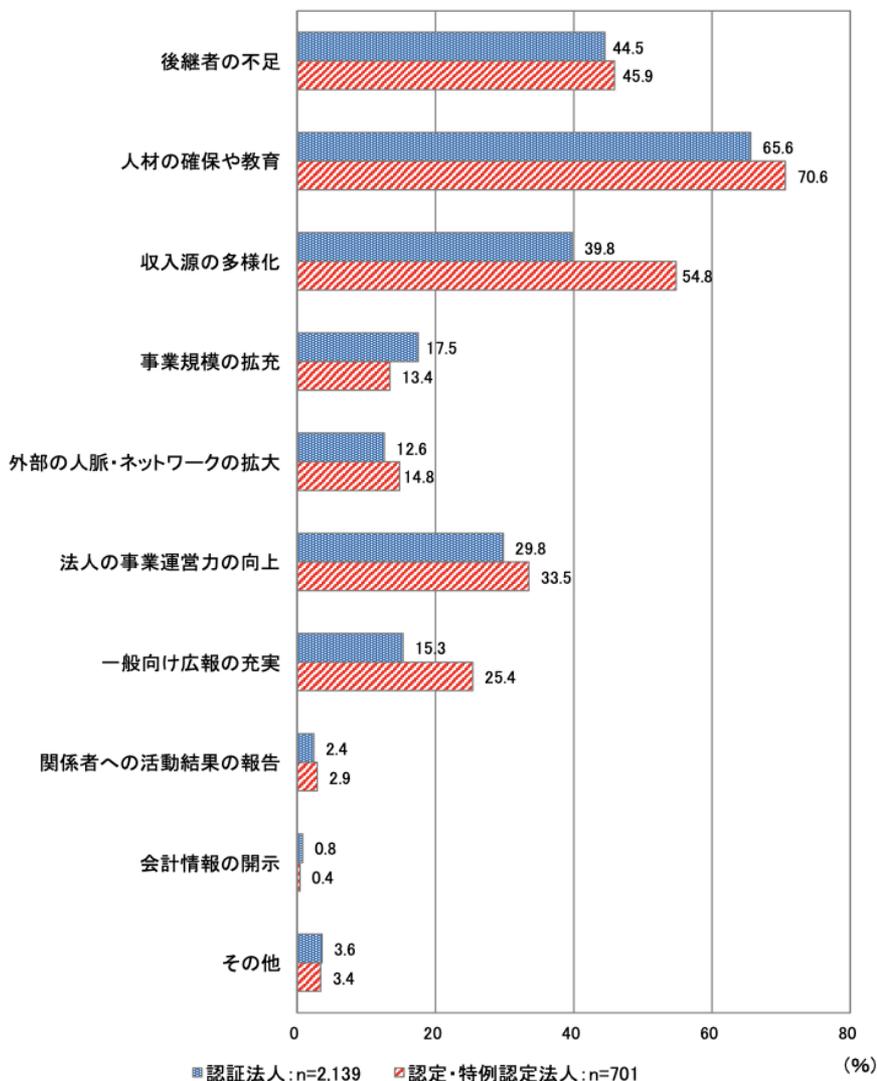
• 人材不足と担い手の偏在

スタッフやボランティアの高齢化、
新規参加者の不足。

特定の人材に業務が集中し、活動の継続性や
発展が難しくなる。

専門性を持つ人材の確保が困難。
(ファンドレイザー、ファシリテーター、
ICTに強い人など)

【図表 10】抱える課題（3つまでの複数回答）



NPO法人が抱える課題は、
 認証法人は、
 「人材の確保や教育」(65.6%)
 「後継者の不足」(44.5%)
 「収入源の多様化」(39.8%)
 が上位



- **社会的認知の低さによる収益性の困難さ**

SNSやWebを活用できない、もしくは活用する余力がなく、活動内容が地域や社会に十分届いていない。

NPO = ボランティア団体という誤解が残っており、専門性が評価されにくい。

かつ、収益のあがりにくい事業構造の上、認知の不足により、持続可能な経営が困難である。



• 地域課題の多様化・複雑化

少子高齢化、人口減少、多文化共生、防災、デジタル化など、多岐にわたる課題への対応が求められる。

一つのNPOだけでは対応が難しく、ネットワーク型の活動が不可欠。

地域支援組織やつなぐ機能がないとNPO同士がつながる機会がない。

②NPOとしての取り組み

コミュニティ・スクールに係る
継続的な研修の企画・運営

自分から自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



新潟県魚沼市 3年の職域ごとの系統的な研修でコミュニティ・スクールの自立的運営を

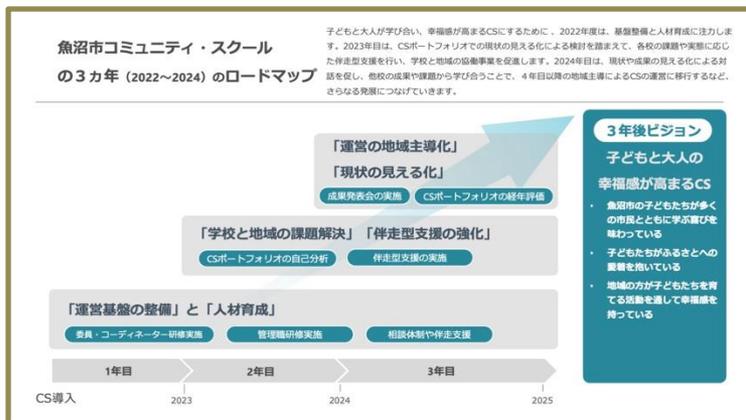
魚沼市ではコミュニティ・スクール(以下、CS)導入1年前の2021年度から教職員や地域住民のCSに対する理解度を深めるため、教育系NPOに伴走支援をお願いし、年間を通じて管理職・地域連携担当教員・コーディネーター・学校運営協議会委員と幅広い対象に地域と学校が協働するための研修や対話の場を提供している。

☆魚沼市CS研修一覧

	2021年 (CS導入1年前)	2022年 (CS導入)	2023年	2024年
魚沼市研修	管理職・地域連携担当 教員向け研修(2回)	管理職・地域連携担当 教員向け研修(2回)	管理職・地域連携担当 教員向け研修(1回)	管理職・教職員向け 研修(3回)
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 地域向け説明会 (中学校区ごと6回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 一般 </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS運営強化研修 (5回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS CO </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 地域コーディネーター 向け研修(2回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS CO </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 学校運営協議会 向け研修(2回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS CO </div> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> <div>CS = CS委員</div> <div>CO = コーディネーター</div> <div>● = 学校教職員</div> <div>● = 地域住民</div> </div>		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> CSポートフォリオ 分析研修 (中学校区ごと6回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS CO </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> CSポートフォリオ 分析研修(1回) </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> 教員 CS CO </div> </div>	

☆取組概要

2022年度に3カ年のロードマップを作成し、1年ごとの状態目標を作成。3年後の2024年度では各学校運営協議会が自立して活動ができるように、CSの制度理解を深める研修や各校の成果と課題を可視化したCSポートフォリオの分析研修など様々な研修を実施している。



☆導入前には地域説明会と教員を交えた勉強会を実施(2021年8月~10月)

2021年度には魚沼市内の地域住民・教職員・保護者を対象に中学校区2回ずつ勉強会を実施。CSの制度説明や地域と学校がCSを通じて育みたい子どもの姿の対話し、CSの理解促進に努めた。

☆中学校区ごとに管理職の相談会を実施(2022年2月~3月)

小中学校の管理職に、CSを導入することへの不安や課題をヒアリング。人選や地域との関係づくりなど、課題解決に向けた策を検討し、来年度への見通しを話し合った。

☆運営協議会委員・コーディネーター・教職員等を対象にした計画的研修の実施(2021年~)

運営協議会委員・コーディネーターには4年間で、現状把握から理想のCS、子ども像につなげる対話の機会や研修を行なっている。管理職には、年2回、CSと地域学校協働活動の一体的推進に向けたマネジメントに関する研修を実施。4月には他市町村から着任した管理職を対象に魚沼市のCSの取組やCSを通して実現したいことなどを話し合う研修を実施した。また、全小中学校の一般教職員約200名を対象としたCS研修では、地域住民と協働してつくる社会に開かれた教育活動を考えた。

☆CSポートフォリオ分析研修の実施(2023年~)

2023年度から運営協議会委員・教職員・子どもを対象にCSポートフォリオを実施。分析研修では、数値結果に対して話し合うのではなく、学校が育みたい子どもの姿から目指す指標を定め、話し合いを通じて今後の目標と次なる一手を検討した。



教育長

公立の学校運営に地域の方が責任をもって参画するCS制度は、明治の学制発布、戦後の六・三制に次ぐ、学校制度の大改革だと受け止めています。誰もが経験したことの無い大きな変革であれば、教職員を含めた市民のみならずから学んでいただき、趣旨や背景を理解してもらうことが必須と考えています。また、取り組んだからこそ生まれる課題についても、学び、熟議を重ね、納得解を見出していく過程が大事と考えます。子どもたちの育成への参画を通して幸せを感じる地域づくりと、たくさんの大人とかわり故郷に愛着を持てる子どもたちの育成に取り組めます。

事例紹介：魚沼市立広神東小学校

CSルームを起点とした活動

空き教室をCSルームにしたことで、地域の人々の活動拠点に。



活動のきっかけは

魚沼市教育委員会主催

「CSポートフォリオ研修」

対象：学校のCS委員全員（校長・教頭含）

内容：

先生からこどもたちの伸ばしたい力を共有

CSポートフォリオの結果から

「高めたい数値」 「実際の数値と要因」

「次なる一手」を検討する

CSルームで昼休みわくわく教室

CSルームで昼休みの時間を活用して、
児童が地域の人から伝統文化などを学んでいる

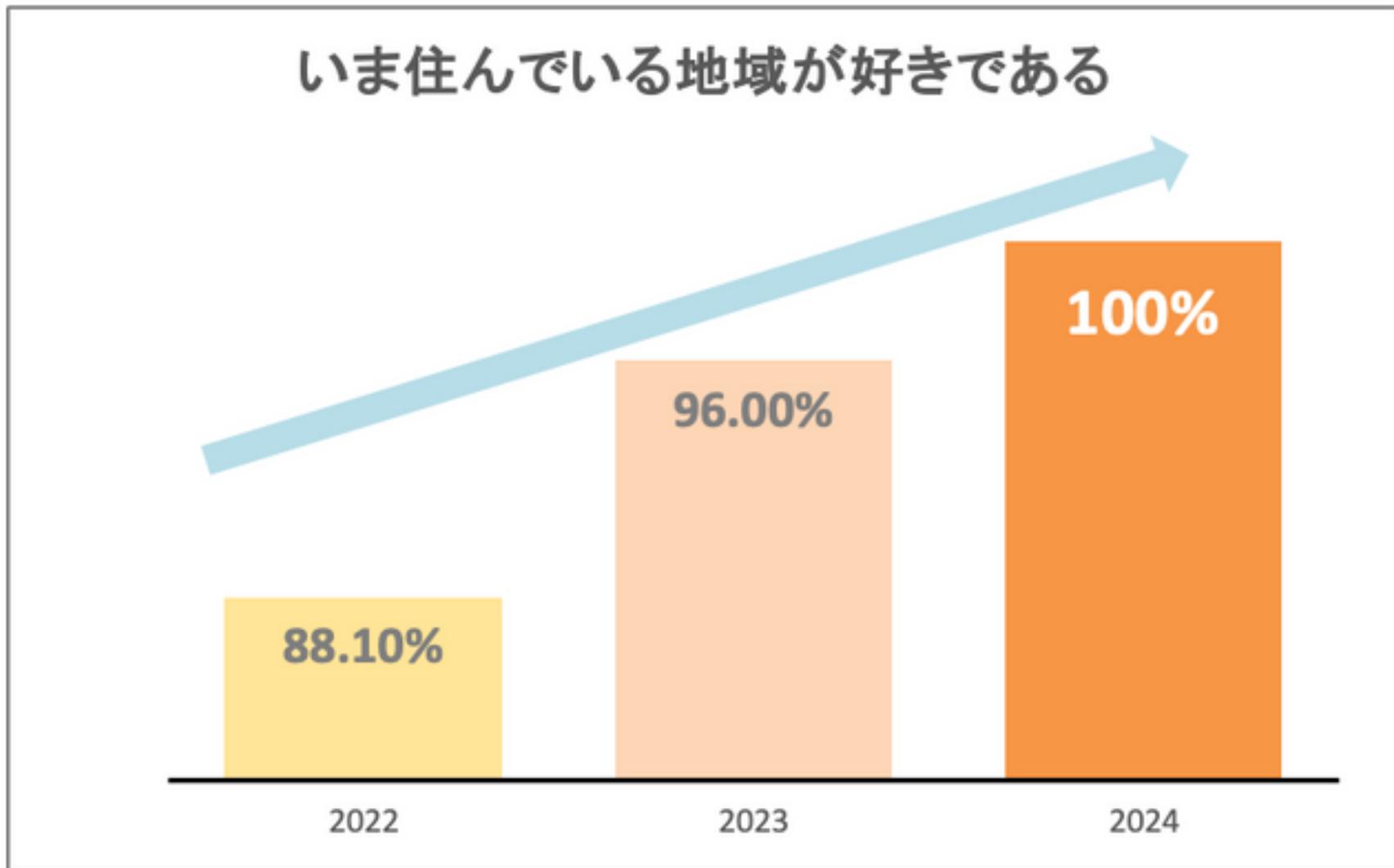


茶道体験教室



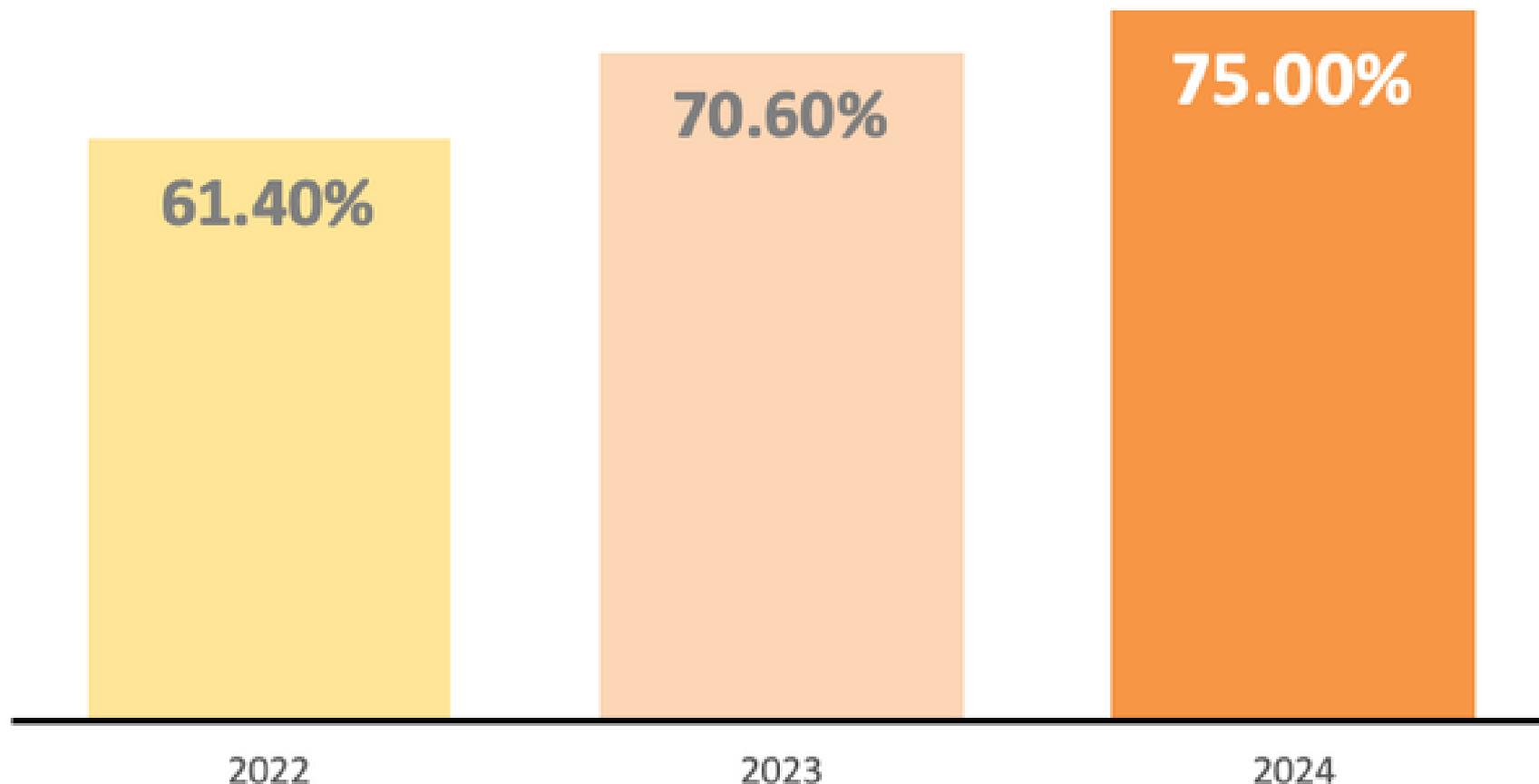
方言カルタ教室

こどもたちのアンケート結果の変化



大人の「この地域が好きだ」という思いが
受け継がれている

地域の中でも活動や、地域の人と交流することは楽しい



目標の「ふれあい」が
数値としても成果UP

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の 一体的推進

子どもを核に
地域住民が持続可能な地域づくりや創り手の
育成を考え、実践する

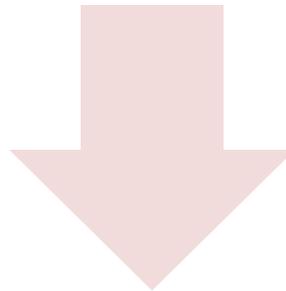
踊り手保存会に3名の
子どもたちが
参加するように！

地域学校協働活動を通して、
NPOなどの地域団体がゆるやかにネットワー
クを結ぶ機会になる

(人材不足と担い手の育成・確保、NPOのネットワー
ク化による地域課題の多様化・複雑化への対応)

学校と地域、家庭の協働は、
それぞれ違う価値観、状況を抱えているので、
簡単なことではない（葛藤や停滞は起こって当然）

関わる人たちが
何のためにやるのかという納得感
そのためにお互いの文化や当たり前を知る
対話やコミュニケーションを重ねる必要がある



○実際は、立ち上げに1回のみ説明会や研修を実施しているのが大半

→社会教育行政が協働に向けた学びを継続的に
つくったり、伴走支援をするなど
対象ごとに課題に応じて学びやふりかえりの
機会をつくっていく必要がある

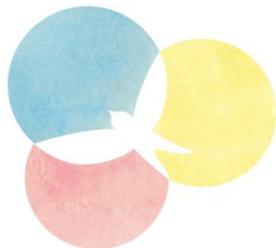
○教職員に社会教育の視点があると
協働が進みやすい

→教員養成段階、教職員への社会教育士や主事
への啓発

②NPOとしての取り組み

子どもたちの
意見表明・社会参画の
仕組みづくり

自分から 自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



みらいず
works

自身と社会の関わりについて、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。また、日本では、「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」が5割を切っているのが特徴的。

質問11：自身と社会の関わりについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
 ※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
国や社会に役立つことを したいと思う	64.3	78.4	77.7	93.6	71.1	85.9
自分は責任がある 社会の一員だと思う	61.1	79.4	80.7	92.1	74.5	86.8
ボランティア活動に参加したい	60.4	76.3	68.6	89.8	70.5	79.2
慈善活動のために 寄付をしたい	58.4	78.4	79.5	87.2	66.6	84.4
自分は大人だと思う	49.6	76.6	75.8	90.0	54.8	81.7
自分の行動で、 国や社会を変えられると思う	45.8	65.6	56.1	83.7	60.8	80.6

引用：日本財団「18歳意識調査-第62回-国や社会に対する意識(6カ国調査)」2024

https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2024/03/new_pr_20240403_03.pdf

子供の意見を反映・社会参画を実現するための受け皿として コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度、以下CS）活用が有効である

令和7年7月28日
教育課程企画特別部会
参考資料2-3

新潟県 魚沼市立小出中学校

生徒数：240名 学級数：10学級

令和4年度より、CS委員からの「生徒の想いを聴き取り、CSの活動に反映させたい」との声を受け、地域住民と全校生徒が魚沼地域の未来について対話し合う場として、「地域を語る会」を実施している。

令和5年度には、生徒たちの提案から実現した商店街火災に対する募金活動が、令和6年度には地域行事（小出まつり）との協働企画として展開され、いずれもCSの支援により実行に至った。令和7年度には、生徒のアイデアの創出から実践までのプロセス全体を第3学年の教育課程に位置づけ、地域活動と一体的に推進している。

STEP1 地域を語る会

地域の魅力と課題を明確にしたうえで、自分たちにできそうなことを見つけ出すことをねらいに、全校生徒と地域住民がともに語り合った。「魚沼（小出）の魅力と課題・問題点」「地域活性化のために、自分は、自分たちは何をしたいか」について、想いを共有し、意見を深めた。

子供たちからは「地域の方と交流しながら、将来の魚沼のことを考えられてよかったです。こういう地域の人と交流できる機会をもっと増やしてほしいです」「地域のことについてより詳しく考えられたし、頭の中にしまっていた地域をより活性化させるための案がたくさん出てきました。これから、ボランティア活動や、地域の伝統を継承していき子どもが参加できる活動をしていきたいです」との声が上がった。



▲「地域を語る会」対話の様子



※令和7年度の様子

STEP2 子供たちの考えたプロジェクト実施

「地域を語る会」で生徒から提案されたアイデアをもとに、令和6年度の地域行事「小出まつり」において、生徒会とCS委員が中心となり、プロジェクトを企画・運営した。

小出CSチームとして生徒会とCSが呼びかけを行い、約100名の児童生徒・地域住民が民踊流しに参加したほか、花火大会後の清掃活動や、商店街でのブース出店・オリジナルグッズ販売と寄付活動など、地域と協働した取り組みが実現した。プロジェクトの実施にあたっては、地域学校協働本部やCS委員等が、生徒の地域活動をコーディネートすることで、教職員の負担軽減にも配慮した運営がなされている。

令和7年度は、こうした活動の実践を第3学年の教育課程に位置付け、生徒が主体的に地域参画に取り組む予定である。



▲商店街でのブース出店・オリジナルグッズ販売と寄付活動

※令和6年度の様子

CSポートフォリオでの数値変化
全校生徒対象、令和4年～令和6年で
実施した「CSポートフォリオ」結果

- 地域における大人との関わり
10.5%上昇
- 自己肯定感
5.0%上昇

●地域住民（主に、運営協議会委員）との対話が契機となり、子どもが主体的に社会参画する活動へと結びついた結果、自己肯定感の数値（CSポートフォリオ）が年々上昇している。

●意見表明で終わらず、事業や計画に反映させたり、子ども主体の次なる活動や実現に向けたサポートをしたりすることが地域側（CS、自治体等）に求められる。

●社会参画活動の受け皿として、CSや地域学校協働活動が機能していくことが重要である。NPO法人みらいずworks 小見まいこ 提出資料

令和7.7.28



子どもの声を聴く寄り添う 子ども若者ミーティングまでの道のり

〈 子ども若者ミーティングを開催するまでの道のり 〉

1
子ども向け
子ども意見表明ワークショップ
中高生がファシリテーションのスキルとマインドをワークを通して学びます。

2
大人向け
子ども意見表明ファシリテーター養成講座
子どもの意見を引き出すファシリテーションのスキルとマインドを学びます。

3
子ども 地域の大人
子ども若者ミーティング
子どもが地域の人と地域の課題や未来について対話しアイデアを出し合います。





子ども ファシリテーション講座



・ 社会参画の権利 ・ ファシリテーションの基本

● 参加者の声

- ・ 明日からの話し合いや、家庭内など、自分の意見を話すときだけでなく、相手の意見を聞くときや、全体で話を深める時に活かしていきたいです
- ・ 互いに知り合おうと思って接することが大事なんだなと気づくことができました



地域・子ども・ファシリテーター が地域課題について話し合う

子ども若者ミーティング (全2回)

第3回 意見交換ワークショップ

2024年12月7日(土) 13:30~16:00 [13:00開場]
in 新潟市立鳥屋野中学校 ランチルーム

第4回 子どもたちによるプレゼン&意見交換会

2025年1月25日(土) 13:30~16:00 [13:00開場]
in 新潟ユニゾンプラザ 小研修室2

- 意見交換ワークショップでは、中央区の地域課題について、子ども・若者が解決に向けて意見やアイデアを出し合います。講座を受講した子ども意見表明ファシリテーターは、子ども・若者からの意見を引き出せるような声かけをしていきます！
- 子どもたちによるプレゼン&意見交換会は、意見交換ワークショップで出た子ども・若者のアイデアプレゼンを踏まえて、地域の方からフィードバックをもらいます。また、意見交換会では子ども意見表明ファシリテーターは地域の方からのフィードバックを踏まえて、子ども・若者と一緒にさらに良い提案に繋げるために意見やアイデアを対話しながら引き出します。

子ども若者ミーティングでは子ども意見表明ファシリテーターとして活躍の機会があります！





対話のテーマ

上所コミュニティ協議会さんと



これから駅を利用していく

中学生&高校生と一緒に

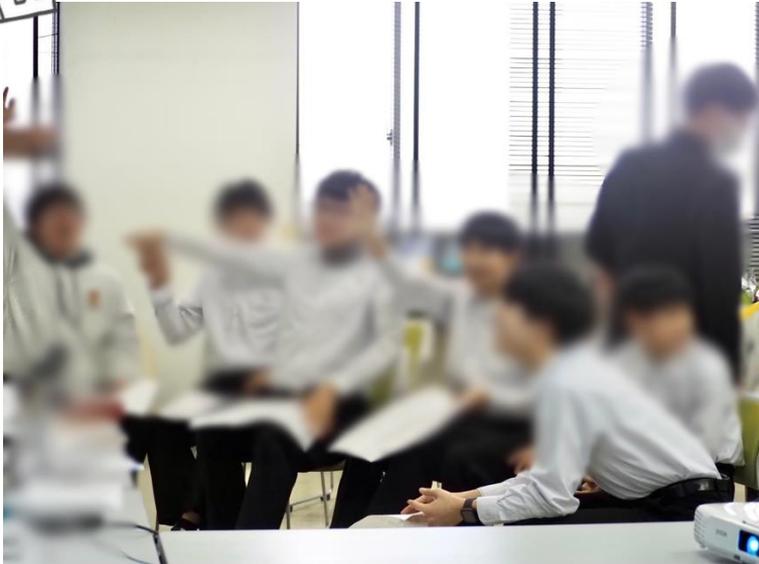
上所駅の未来創造と

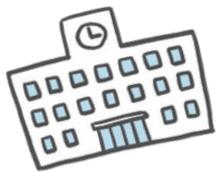
自分たちにできること、したいことを

対話

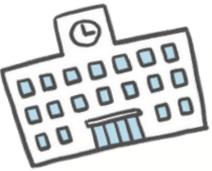


子ども若者ミーティングの様子





社会の構成員として
よりよい社会のために
積極的に参加したい



＼地域への思い／
＼子どもたちへの願い／

＼地域への思い／
＼自分たちができること／

関係性ができる



地域への思いを
一緒に語る



地域活性化

アクションする

自己肯定感
地域への関心
社会参画意識

地域づくり・人づくり

未来の創り手の育成



地域コミュニティのプレイヤーを輩出するには、 小・中・高校時代に意見表明、社会参画の経験が 重要

地域の課題解決のために、都会で専門性を身につけ帰ってくるという循環が生まれている地域もある

子どもたちの意見表明や社会参画の機会は、社会教育が担っていた部分でもある。

【例】子ども会、ボーイスカウトなどの社会教育団体

人材不足と担い手の偏在
少子化や多様化、共働き世帯の増加などにより



ボランティアベースで社会教育団体を継続する
ことの限界が生じてきている地域もある

**地域のNPO、社会教育団体が持続可能で
続けていけるための仕組みを考えていく必要がある**

大人が子どもたちの声を聞くことは、
自分たちの存在が大事であることを認識する機会

社会につなげるきっかけをつくること

人を育てたらその人たちが実践する後押しや
次なる実践のサポートをする伴走が必要

そのために、探究学習や社会参画の伴走の受け皿
となるNPOや企業、地域団体が重要

その調整役（コーディネート）は、
社会教育行政や社会教育人材が担えること

ご清聴をありがとうございました

